

教育の質向上のためのPDCAサイクル

情報公開

課題を次のサイクルの改善に生かす

4 Act 改善

教育改善や学修支援等に活用

- ・ 翌年度の開講方針に反映
- ・ 授業の目標に応じて、直接評価と間接評価を適切に組み合わせる
- ・ 国家試験合格率の向上
- ・ SD・FD活動の推進

今後の課題

- ・ アセスメントポリシーの改善
- ・ ルーブリックの開発
- ・ アクティブラーニングの推進

Plan 計画 1

学修目標の具体化

- ・ 「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）」
- ・ 学生の学修目標として、また、卒業生に最低限備わっている能力を保証するものとして、具体的かつ明確に定める
- ・ 3つのポリシーに則り実施される大学教育の成果を、学修成果の評価方法を明文化したアセスメントポリシーに基づき点検・評価する

カリキュラム評価・成績評価

- ・ 学生が自らの学修成果として身に付けた資質・能力を自覚できるようにする
- ・ 複数の情報を組み合わせ、学修成果・教育成果を多角的に把握・可視化する
- ・ 大学教育の質保証の根幹として、また、学修成果・教育成果の把握・可視化を適切に行う上での前提として、成績評価の信頼性を確保する
- ・ カリキュラムの点検・評価を毎年度行う

3 Check 評価

体系的なカリキュラム編成と実施

- ・ 明確な到達目標を有する個々の授業科目が学位プログラムを支える構造となるように、体系的かつ組織的なカリキュラムを編成する
- ・ 授業科目が過不足なく設定されているか、各授業科目相互の関係、履修順序や履修要件を検証
- ・ シラバスは、個々の授業科目について学生と教員との共通理解を図るものであり、また成績評価の基点となる

Do 実行 2

学修成果の把握・可視化

◆機関レベル・プログラムレベル◆

- ・ 卒業時の学修成果の到達状況を、教育プログラムにおける活動全体を通して測定する
- ・ 機関レベルでは、入学試験、学位の取得状況、就職率、進学率、修業年限内の卒業率、学修行動調査、課外活動状況、卒業時アンケート、学生の成長実感・満足度等を指標とする
- ・ プログラムレベルでは、入学試験、単位修得状況、セメスター・年間GPA、卒業論文・卒業研究の水準、卒業試験の成績、国家試験合格率、学修行動調査、学生生活調査、課外活動状況、卒業時の満足度調査、卒業生に対する評価、卒業生からの評価等を指標とする
- ・ アセスメントポリシーに基づいた分析結果から、3つのポリシーとの整合性を検証し、必要に応じてカリキュラムもしくは3つのポリシーを見直す

◇科目レベル◇

- ・ 科目ごとの学修成果の達成状況を測定する
- ・ シラバスに記載された具体的な到達目標と各到達目標に応じて設定された成績評価方法に基づき達成度を評価する
- ・ 単位修得率、学修時間、授業評価アンケート、成績分布状況等も科目レベルの指標とする